

茨城県

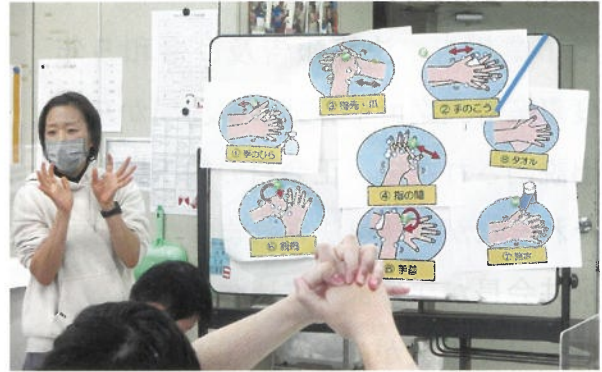
育成会だより

第 150 号

発行日 令和5年7月10日
 発行 一般社団法人
 茨城県手をつなぐ育成会
 編集 広報委員会
 事務局 〒310-0851 水戸市千波町1918
 セキショウ・ウェルビーイング福祉会館内
 ☎ 029-243-3838
 FAX 029-243-3854
 URL <http://www.ibaikuseikai.com/>
 e-mail iba-ikuseikai@bz03.plala.or.jp



裏山でウォーキング



感染予防のための手洗い研修



作業 (アルミ缶リサイクル)



季節の掲示物 (5月:こいのぼり)

連絡先: 鹿嶋市平井1127番地2
 電話: 0299-8416301

健康の維持が課題となり、将来について考える利用者さんが増えています。学園のモットーである、利用者一人ひとりの「元氣・楽しさ・喜び」について考え、笑顔で過ごせるために、学園でできる活動や支援について推進していきます。

利用者の皆さんの年齢上昇に伴い、体力や健康の維持が課題となり、将来について考える利用者さんが増えています。学園のモットーである、利用者一人ひとりの「元氣・楽しさ・喜び」について考え、笑顔で過ごせるために、学園でできる活動や支援について推進していきます。

松の木学園は、平成9年4月に知的障害者通所更生施設として開所し、現在は生活介護事業を運営しています。学園では健康維持のため、園庭や裏山を活用したウォーキングを実施しています。新型コロナウイルス感染症予防のため、屋内で密集する活動を控えていたことから、雨天時や暑さが厳しい時期の運動量低下が課題となっています。令和5年度は屋内でも体を動かす活動について、幅を広げていきたいと考えています。

一人ひとりの「元氣・楽しさ・喜び」のために
 松の木学園 サービス管理責任者 辻 淳子



この印刷物は共同募金配分金が使われています

令和5年度定時総会が開催される

茨城県手をつなぐ育成会の令和5年度定時総会が6月16日10時から水戸市のセキショウ・ウェルビーイング福祉会館で開催されました。令和4年度事業報告、決算報告及び令和5年度事業計画案、予算案が事務局から提出説明された後、正会員の拍手によりそれぞれが承認可決されました。冒頭、永井会長が次のように述べました。



挨拶をする永井会長

令和5年度がスタートしました。この3年間様々な取り組みが延期や中止に追い込まれましたが、いよいよ本格的に活動が再開します。

ところで、コロナ禍の3年間で知的障がい者を取りまく社会の情勢もかなり変化しました。本会でも会員数の減少、高齢化などの課題が山積しています。また、親の高齢化とともに障害のある子どもたちも年齢を重ね、若い頃とは違った課題も生まれてきています。

そこで、このような課題に機動的に取り組むためには、今後の会員数の減少を視野に入れた小回りの利く組織への変革が必要ではないでしょうか。今後、会員の皆様のご意見を伺いながら、新たな時代の社会や制度に適応した身近で、それでいて頼もしい手をつなぐ育成会ができればと考えています。

この先数年を要する改革になるかもしれませんが、令和の時代に即した手をつなぐ育成会を目指してまいりますのでご協力をよろしくお願いいたします。

また、来賓として出席された茨城県福祉部障害福祉課 副参事 西野 孝 様、茨城県教育庁学校教育部特別支援教育課 総括課長補佐 宮尾 徹 様よりご挨拶をいただきました。

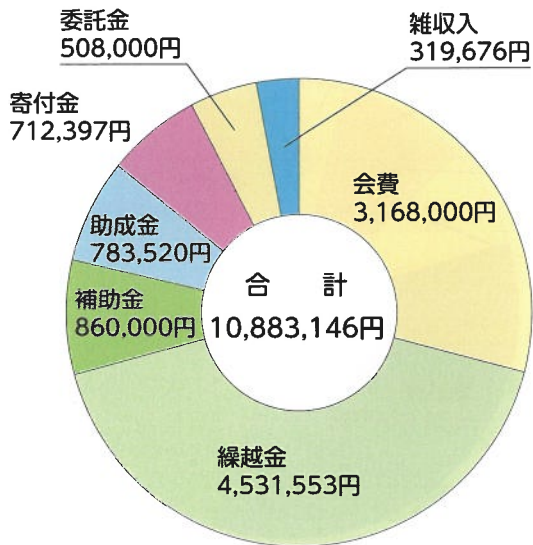
(令和5年度重点テーマ)

- ① 特別支援学校、特別支援学級等との地域交流活動の推進
- ② 若い世代のニーズの把握及びニーズに即した事業の展開
- ③ ホームページ活用、会報誌等による情報発信と地域育成会への情報提供

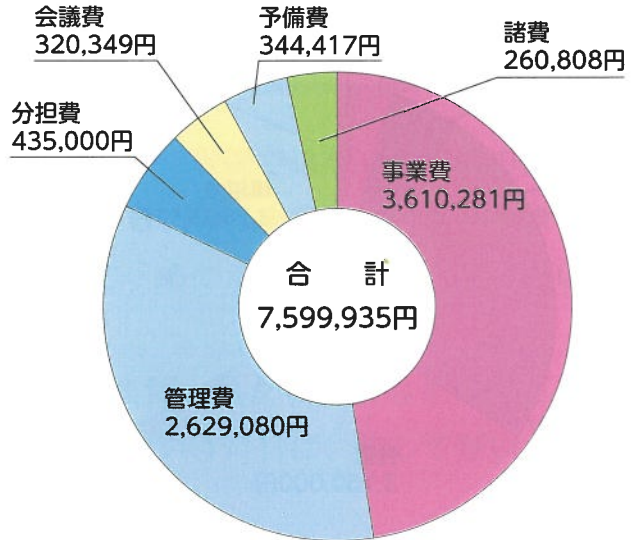


令和4年度決算報告概要

一般会計収入の部



一般会計支出の部



期間 自：令和4年4月1日
至：令和5年3月31日

【一般会計収入の部】

単位：円

項目・収入額	主な内容	
会費 3,168,000	地域育成会	2,992,800
	社会福祉協会	10,000
	特別支援教育研究部	128,200
	知的障害特別支援学校	19,000
	賛助会員	18,000
補助金 860,000	心身障害児(者)福祉団体補助金	360,000
	福祉団体支援事業補助金	500,000
委託金 508,000	ボランティア活動参加促進事業	158,000
	相談員活動強化事業	350,000
助成金 783,520	共同募金配分金	310,000
	地方活動助成金	173,520
	いばらき障害者生活サポート協会	300,000
寄付金 712,397	茨城県PTA連絡協議会	60,000
	茨城県遊技業協同組合	50,000
	茨城新聞文化福祉事業団歳末愛の募金	150,000
	匿名	1,100
	心のとも運動	451,297
雑収入 319,676	銀行利息	76
	R3年度8月大雨義援金	219,600
	育成会だより広告掲載料(JIC)	100,000
繰越金		4,531,553
計		10,883,146

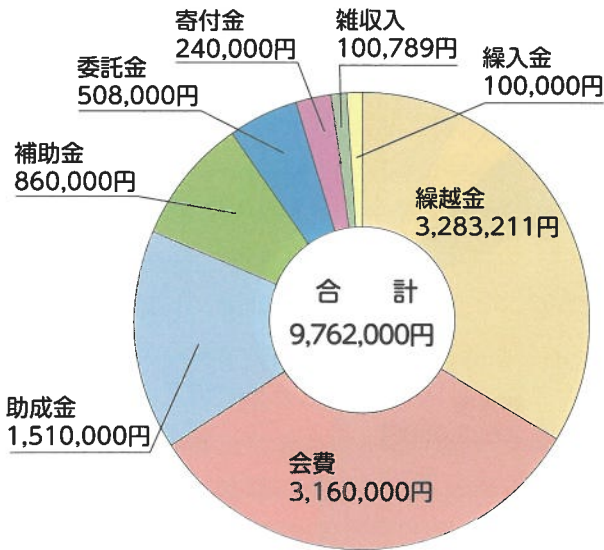
【一般会計支出の部】

単位：円

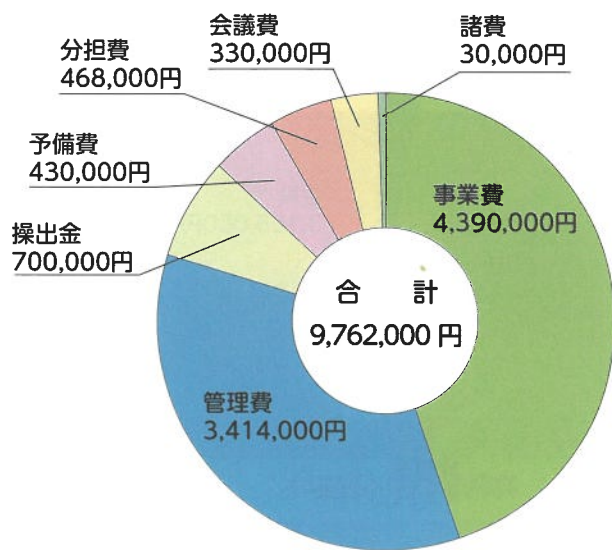
項目・支出額	主な内容	
会議費 320,349	理事会	289,661
	総会等	30,688
事業費 3,610,281	研修費	317,850
	大会費	700,000
	専門委員会費	738,535
	手をつなぐ子らの作品展	240,000
	組織強化費	345,616
	啓発推進	670,058
	代表者派遣費	141,110
	団体助成費	107,112
相談研修事業費	350,000	
管理費 2,629,080	旅費	1,400
	需用費	226,755
	役務費	208,913
	人件費	2,031,466
	借用損料	160,546
分担金 435,000	分担金	435,000
諸費 260,808		260,808
予備費		344,417
計		7,599,935

令和5年度予算概要

一般会計収入の部



一般会計支出の部



期間 自：令和5年4月1日
至：令和6年3月31日

【一般会計収入の部】

単位：円

項目・収入額	主な内容	
会費 3,160,000	地域育成会	3,000,000
	社会福祉協会	10,000
	特別支援教育研究部	131,000
	知的障害特別支援学校	19,000
補助金 860,000	県福祉団体補助金	360,000
	県福祉団体等支援事業補助金	500,000
委託金 508,000	ボランティア活動参加促進事業	158,000
	相談員活動強化事業	350,000
助成金 1,510,000	共同募金配分金	350,000
	地方活動助成金	160,000
	いばらき障害者生活サポート協会	1,000,000
寄付金 240,000	茨城県PTA連絡協議会	60,000
	茨城県遊技業協同組合	50,000
	茨城新聞文化福祉事業団歳末愛の募金	130,000
	心のとも運動	0
繰入金 100,000	関プロ積立予算より	100,000
雑収入 100,789	広告掲載料	100,000
	預金利息	789
繰越金		3,283,211
計		9,762,000

【一般会計支出の部】

単位：円

項目・支出額	主な内容	
会議費 330,000	理事会	290,000
	総会等	40,000
事業費 4,390,000	研修費	700,000
	ブロック懇談会	100,000
	大会費	700,000
	専門委員会費	980,000
	手をつなぐ子らの作品展	0
	組織強化費	460,000
	啓発推進	690,000
	代表者派遣費	250,000
	団体助成費	160,000
	相談員研修事業費	350,000
管理費 3,414,000	旅費	30,000
	需用費	400,000
	役務費	220,000
	人件費	2,574,000
	借用損料	190,000
分担金 468,000	分担金	468,000
繰出金 700,000		700,000
諸費 30,000		30,000
予備費 1,213,000		430,000
計		9,762,000

育成会長活動日記

第3回

福祉は人が支えています

茨城県手をつなぐ育成会 会長 永井 立雄

新型コロナウイルスに振り回された3年間の過ぎ、世間ではやっと以前の落ち着きが戻ってきたようです。様々なイベントが復活し、福祉施設等での面会も徐々に緩和されてきました。かつての日常が戻ってきて、めでたしめでたしと言いたいところですが、戻ってこないものもあります。

手をつなぐ育成会の活動が3年間停滞している間、私たち会員もその子どもたちも確実に3歳年を重ねたということです。3年という月日は、決して短いものではありません。「親なき後」が3年近づきました。

この間、賃金の上昇という少し明るいニュースもありましたが、このことが福祉現場で深刻な問題を引き起こしていくことをご存じでしょうか。ただでさえ人手不足の世の中で福祉現場からの人材の流出が止まらないのです。民間企業が次々と賃上げに方向転換するなか、福祉現場の給与は制度的に簡単には上げることができないという現実があります。制度が変わらなければ福祉現場の慢性的な人手不足はずっと続いていくことになるでしょう。このことは、福祉サービスの質・量の低下につながり、知的障がい者が将来お世話になるグループホーム等の経営にも大きな影響を及ぼします。

手をつなぐ育成会では、これまでも市町村や県などに対する福祉サービス充実の要望、社会に対する啓発活動などの様々な活動を展開してきました。けれども、福祉現場で働く人たちの労働環境や給与水準の向上に関してはあまり関心をもってきませんでした。しかし、「親なき後」の安心のためには、地域に十分な数のグループホームとそこでの日常の生活を支えてくれるスタッフが安心して働ける労働環境も重要ではないでしょうか。

これらの課題を解消していくためには、親の立場から市町村・県に訴えるだけでなく、全育連などの組織の活動を通して国レベルに制度改革を訴えていくことが必要になります。全国的な運動にしていくことも大切ですね。



特別支援学校の今

茨城県内の特別支援学校を順次紹介していきます

県立常陸太田特別支援学校（常陸太田市）

「一人一人が主人公 ～共に学び、共に育つ～」

本校は、平成27年4月に小学部が先行開校、平成28年4月に全面開校し、創立9年目を迎えました。児童生徒数は、200名（小学部86名、中学部49名、高等部65名）です。

校庭は、地域の方から愛されている「瑞桜^{ずいおう}」をはじめとする多くの桜に囲まれ、鳥の美しいさえずりが聞こえる、自然豊かな学校です。

児童生徒が自分の力を最大限に発揮し笑顔で生活できるよう、地域に根ざした教育と個に応じた指導により、自立と社会参加を目指して一人一人の「生きる力」を育てることを目指しています。

<本校の特色ある活動の紹介>

○地域に根ざしたキャリア教育

開校時から、全児童生徒が12年間連続して地域の中で実際に働く体験をとおして、自分の役割を果たすことや人の役に立つ喜びを知り、「認められる経験」を積み重ね、キャリア発達につなげていくために、小学部「お仕事体験」、中学部「職場体験学習」、高等部「インターンシップ」を実践しています。

○OTAぶどうプロジェクト

令和元年度から、地域の企業の協力を得て、学校近くの畑で加工用ぶどうの共同栽培を行っています。地域の方々と一緒に小学部から畑の除草や肥料まき、枝の剪定、収穫など、栽培に関する仕事を体験し、木の成長と共にジュース、ワインの加工等にかかわる仕事にも取り組んでいます。

○読書タイム

小学部は「みんなで読書」、中・高等部は「読書タイム」として図書室を利用した国語の学習を、週に一度行っています。児童生徒は、読書の時間を楽しみにしており、集団での読み聞かせ、毎年10月～11月の読書月間での、「おすすめの本」の紹介や新聞を活用した学習などにも熱心に取り組んでいます。



小学部：お仕事体験



中学部：職場体験学習



OTAぶどうプロジェクト



小学部：みんなで読書

県手をつなぐ育成会事務局からのお知らせ

○「心のとも運動」へのご協力のお礼

県手をつなぐ育成会では、知的障害児者が安心して暮らせる地域社会を目指して、特別支援学校・学級の充実や知的障害児者教育研究、さらに障害者福祉に対する県民理解の促進等を支援するため、「心のとも運動」を実施してまいりましたが、諸般の事情により、令和4年度をもって同運動の実施を終了いたしました。

「心のとも運動」は、昭和42年から「愛のひとしづく運動」として取組を開始し、昭和62年には「心のとも運動」と名称を改めて、手をつなぐ子らの作品展など知的障害児者への療育思想の普及啓発と併せて本会の活動財源の充足を図ってまいりました。

特に、県内の小中学校の児童生徒さんをはじめ、先生方には特段のご協力をいただき深く感謝申し上げます。また、この間の長きに渡る会員の皆さまの多大なるご協力にもあらためて御礼申し上げます。

本会では、今後とも知的障害児者への療育思想の普及や障害者福祉に対する社会啓発とともに、知的障害児者とその家族に対する福祉の向上、さらに「親なき後」も住み慣れた地域で安心して暮らすことができる共生社会の実現と権利擁護に努めてまいりますので、皆さまの変わらぬご支援、ご協力をお願い申し上げます。

○茨城県手をつなぐ育成会麺類販売事業の実施のお知らせ

県手をつなぐ育成会の様々な活動については、茨城県からの補助をはじめ県共同募金会など各種団体からの助成もいただいて、地域育成会とともに実施しておりますが、今後も引き続いて活動を展開していく財源を確保するため、今年度より本会の会員の皆さま方を対象に、夏期と冬期に麺類販売事業を実施することになりました。

本事業でご案内させていただく商品（乾麺）は、百貨店等で販売されているものですが、皆さま方には特別価格でご購入いただけるとともに、本会が取りまとめることにより商品代金の一部は本会及び地域育成会の活動資金に充当され、知的障害児者への理解の輪を広げる社会啓発活動などに役立てられることとなります。

本会では、今後とも様々な事業を通して、住み慣れた地域での共生社会の実現を目指して活動してまいりますので、何卒、本事業の趣旨をご理解いただきますとともに、皆さま方のご協力をお願いいたします。

令和5年7月からの行事予定

月	日(曜日)	行事予定
7月	13日(木)	第1回知的障害者相談員研修会(大研修室)
	26日(水)	第2回理事会(中研修室)
8月		
9月	16日(土)	県障害者スポーツ大会(レクリエーション競技)
	22日(金)	研修委員会研修会(コミュニティホール)
10月		第3回理事会(中研修室)
		手をつなぐ育成会茨城大会

月	日(曜日)	行事予定
11月	8日(水)	第2回知的障害者相談員研修会(大研修室)
		第4回理事会(中研修室)
	18日(土)	第57回関プロ栃木大会・本人大会(宇都宮市・県総合文化センター)
12月	8日(金)	ナイスハート発表会・美術展(～11日)
	9日(土)	ナイスハートふれあいフェスティバル2023(～10日)

新事務局職員紹介

蜂須 美穂

よろしくお願いします。令和5年4月より、事務局職員として勤務させていただきます。県肢連に加え県育成会の事務も担当させていただきます。

以前は接客業や、企業で事務の仕事をしていました。障害福祉の事務は、未経験ですが、周りの方に助けていただきながら報告・連絡・相談を大切に、ミスがないように確認作業の徹底を心掛けて取り組んでいきます。

私は子どもが大好きで、保育士の資格を取る際には、障害者施設に宿泊で実習をさせていただきました。施設では、どのように過ごせば良いのか分からない私に、利用者さんが色々話かけてくれたり、笑いかけてくれて嬉しかったことを憶えています。

また、障害福祉についても、皆様のお話を伺いながら勉強させていただいて少しでも皆様のお役に立てるように頑張りたいと思います。これからもよろしくお願いします。



新任相談員として

相談員 大森 正雄

令和5年4月より、「障害者なんでも相談室」の相談員となりました。

特別支援学校の教員として定年を迎え、その後、茨城県教育研修センターにおいて、発達が気になるお子さんの教育相談や小・中・高校の先生方に特別支援教育の理解や発達障害等の特性を深めていただく研修に携わってまいりました。

特別支援学校で最初に受け持った子どもたちも、今や50歳を超えています。卒業生の主催する同窓会に参加しながら、それぞれの近況に触れ、思いを巡らせるのですが、自分がいかに年を重ねてきたかを実感することになります。

この度、「障害者なんでも相談室」の相談員として勤務することになりましたが、これも偶然ではなく必然であったととらえ、前向きに対応していこうと奮闘中です。とにかく、まずは1年間よろしくお願いします。



編集後記

新型コロナの感染症法上の位置付けが2類から5類に移行して各種イベント・催し物・各種団体等の総会開催や会議等が対面方式で行われる昨今です。少しずつではありますが、世の中の動きがコロナ前の状態の7割程度に戻っていますと、有名な観光地のお土産店主が某テレビのインタビューに答えていました。まだまだコロナが終結した訳ではないと思います。

徳永 一成